

はじめに

昭和20年8月6日、市の中心部上空約600mでさく裂した人類史上初の原子爆弾により、広島市は一瞬にして焦土と化しました。

当時広島市の独力復興は不可能に近い難事でありましたが、国内外の人々からの暖かい援助と市民のたゆみない努力によりみごとに復興し、今日の発展を遂げることができました。

特に、昭和24年に住民投票を経て成立した「広島平和記念都市建設法」は、恒久の平和を誠実に実現しようとする理想の象徴として、広島市を平和記念都市として建設することを目的とした画期的なもので、広島市の復興・発展に大きく寄与しました。

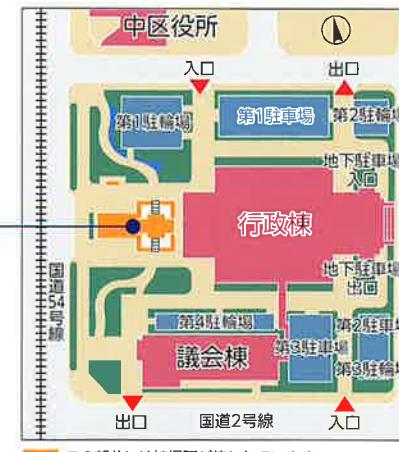
また、多くの原爆被爆者の健康管理と生活援護のため、昭和32年に「原子爆弾被爆者の医療等に関する法律」、昭和43年には「原子爆弾被爆者に対する特別措置に関する法律」が制定され、被爆者援護の大きな礎となりました。

昭和3年に建設された旧庁舎も、原爆により赤黒く焼けただれ廃墟と化しましたが、戦後、幾度かの改修により装いを整えながら広島市の復興・発展を見守ってきました。そして、昭和60年の建て替えを機に、原爆被災時には市役所配給課の倉庫として被爆後の被災者救護活動に重要な役割を果たし、また、壁には行先の知れない家族や知人への伝言が書き残されていたという地下室の一部を旧庁舎資料展示室として改修、保存することとしました。

この展示室は、広島市の復興や被爆者救護運動に心血を注がれた先達の労苦の跡をはじめとして、戦前・戦後の庁舎の姿を写真や模型等で展示し、旧庁舎の被爆した石段や敷石などを使って原爆による悲惨な体験を後世に伝えるとともに、広く平和の尊さを訴えるための記念施設です。



旧庁舎資料展示室



展示室上部中央の彫刻（柳原義造作「道標・壇」）

利用案内

- 開館時間／8:30～17:15
(8月6日は18:30閉館)
- 休館日／12月30日・12月31日
- 入館料／無 料

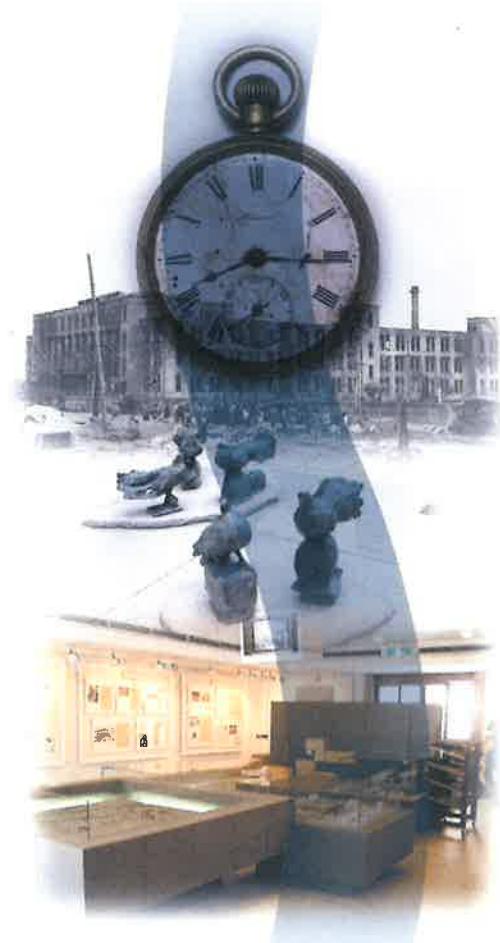
広島市企画総務局総務課

〒730-8586 広島市中区国泰寺町一丁目6番34号
(082)504-2035

広島市役所

旧庁舎資料展示室

ごあんない



広 島 市

広島市役所旧庁舎資料展示室



竣工当時の旧市庁舎

昭和3年春に竣工した旧市庁舎は、広島市の庁舎としては二代目の庁舎で、当時としては、全国諸都市の中でも随一と言われたほど近代的な庁舎でした。

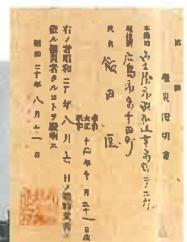


東側から見た被爆後の旧市庁舎

被爆直後の旧市庁舎

昭和20年8月6日、爆心から約1キロメートルの地点にあった旧市庁舎は、1発の原子爆弾により鉄筋コンクリートの外郭と延焼を免れた数室を残し全焼しました。

職員は、稟屋仙吉市長の即死をはじめとして死傷者が続出し、市の行政機能は停止状態に陥りましたが、奇跡的に生き残ったわずかの職員が集り、肉親や知己の死傷の悲しみに耐えながら、災害の緊急措置に昼夜を分かたぬ懸命な努力を続けました。



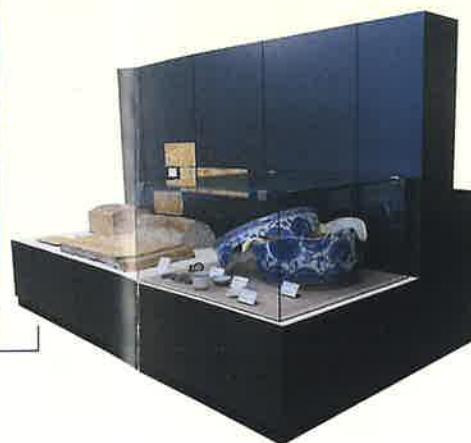
罹災証明書の発行

罹災者には罹災証明書が発行されました。その事務は、市役所のほか、町内会などでも行われました。

罹災証明書は、戦時災害保護法による給付金や県・市からの見舞金の受給に必要でした。また、この証明書があれば、無料で汽車に乗れました。



展示室内部



被爆の実相を語る
主要展示品

- ・旧市庁舎内で被爆した職員の体内から摘出されたガラス片
- ・爆風で割れた旧市庁舎2階貴賓室に置かれてあった火鉢
- ・原爆の熱線により変色した外壁
- ・被爆した腰壁タイル
- ・前庭に敷かれてあつた被爆した石材

旧市庁舎の定礎箱・松杭

定礎箱は、旧市庁舎解体工事中に正面玄関の柱の中から発見されたもので、この中には旧市庁舎の定礎式の挙行を記した定礎銘板と当日発行の新聞、それに当時の金貨などが納められており、旧市庁舎の貴重な記念品の一つです。

また松杭は、旧市庁舎の基礎杭として使用されていたもので、この展示室の地中には、今もそのまま基礎杭として使用されています。

復興に努力する市民

生き残った人々は、焼け跡にバラック小屋を建て細々と生活を始めました。配給される食糧は非常に乏しく、市民は、市役所から配給された苗や種で空地に菜園を作つてようやく飢えをしのぐ状態でした。厳しい食糧危機の中で子供たちの多くが、将来は食糧危機を救う人になりたいと真剣に考えました。



新しい広島は別の場所に再建したらよいという意見もありましたが、市民はこの地で広島の復興を始めました。



ビデオ映像

被爆した市職員が、被爆直後の旧市庁舎の惨状、救援活動状況などを証言したビデオや旧市庁舎に関わる被爆の実相を伝える画像ソフトが視聴できます。



旧市庁舎被爆石の譲与

旧市庁舎の被爆石は、核兵器の廃絶と世界の恒久平和の実現というヒロシマの悲願を訴える生き証人として、姉妹都市であるソビエト連邦(当時)ボルゴグラン市をはじめ、全国各地で今も生き続けています。